



## 第8回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の先生方にご講演をいただき、製薬企業、医療機器企業、診断薬企業、健康食品、サプリ、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・健康産業に対するインスピレーションおよび産業化へのイメージーションを与えることを目的としています。このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティを醸成し、産官学の対話を促進することにつながると期待されます。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回、2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題を聞くことができます。また、交流会では、講師の先生と直接お話しいただけます。

第8回目は、難病治療を目指した「体内再生誘導医薬」の開発およびRNAを標的とした全く新しい創薬手法により治療薬候補物質が見出されつつある京都大学発アカデミア創薬をテーマにとりあげ多数の皆様にご参加いただきました。

日時：2016年6月10日（金） 15:00～18:30

会場：KMO カンファレンスルーム C-01（グランフロント大阪 北館 タワーC 8階）

15:00-16:00 「生体内骨髄間葉系幹細胞を標的とした体内再生誘導医療開発の現状と未来」  
大阪大学大学院 医学系研究科 再生誘導医学寄附講座教授 玉井 克人

血液中の赤血球、白血球、血小板は骨髄内で造血幹細胞から産生される。一方、骨髄内には造血幹細胞とは異なる幹細胞が存在し、培養液中で骨、脂肪、軟骨への分化能力を示すために「間葉系」幹細胞と呼ばれるが、生体内でどのような役割を担っているのかは未だ不明である。我々は、生体内で大量の細胞死が生じると核蛋白 high mobility group box 1 (HMGB1) が細胞外に放出され、骨髄内の間葉系幹細胞を活性化し、血液を介して損傷部位への集積を誘導すること、損傷部に集積した骨髄由来間葉系幹細胞は損傷組織の再生を強く誘導することを見出した。現在我々は HMGB1 を利用した体内再生誘導医薬開発を進めている。



16 : 00-17 : 00

「京都大学発アカデミア創薬—卓越した基礎研究から医師主導治験まで—」

京都大学大学院 医学研究科

教授 萩原 正敏

京都大学では、卓越した基礎研究をベースにした独自の創薬戦略で化合物評価を行い、世界中の研究ネットワークを利用したオープンイノベーションにより、家族性自律神経失調症、デュシェンネ型筋ジストロフィー、ダウン症、自閉症など、遺伝子の異常に起因し従来は薬物治療の対象とされてこなかった疾患の治療薬候補物質が見つかりつつある。ウイルス感染症、慢性疼痛、加齢性黄斑変性、神経膠芽腫などに対する新規治療薬候補物質も見出され、京都大学附属病院での臨床試験の準備が進んでいる。



17 : 00-18 : 00

交流会・名刺交換会

会場： 公益財団法人都市活力研究所 セミナー室



監 修：坂田恒昭（大阪大学サイバーメディアセンター 招聘教授）

竹田 潔（大阪大学大学院医学系研究科・免疫制御学、免疫学フロンティア研究センター教授）

後 援：大阪医薬品協会

共 催：NPO 法人バイオグリッドセンター関西

主 催：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議・公益財団法人都市活力研究所

問合先：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（梅村、松村、大嶋）

公益財団法人都市活力研究所

電話：06-6359-1322（味村、會澤）